

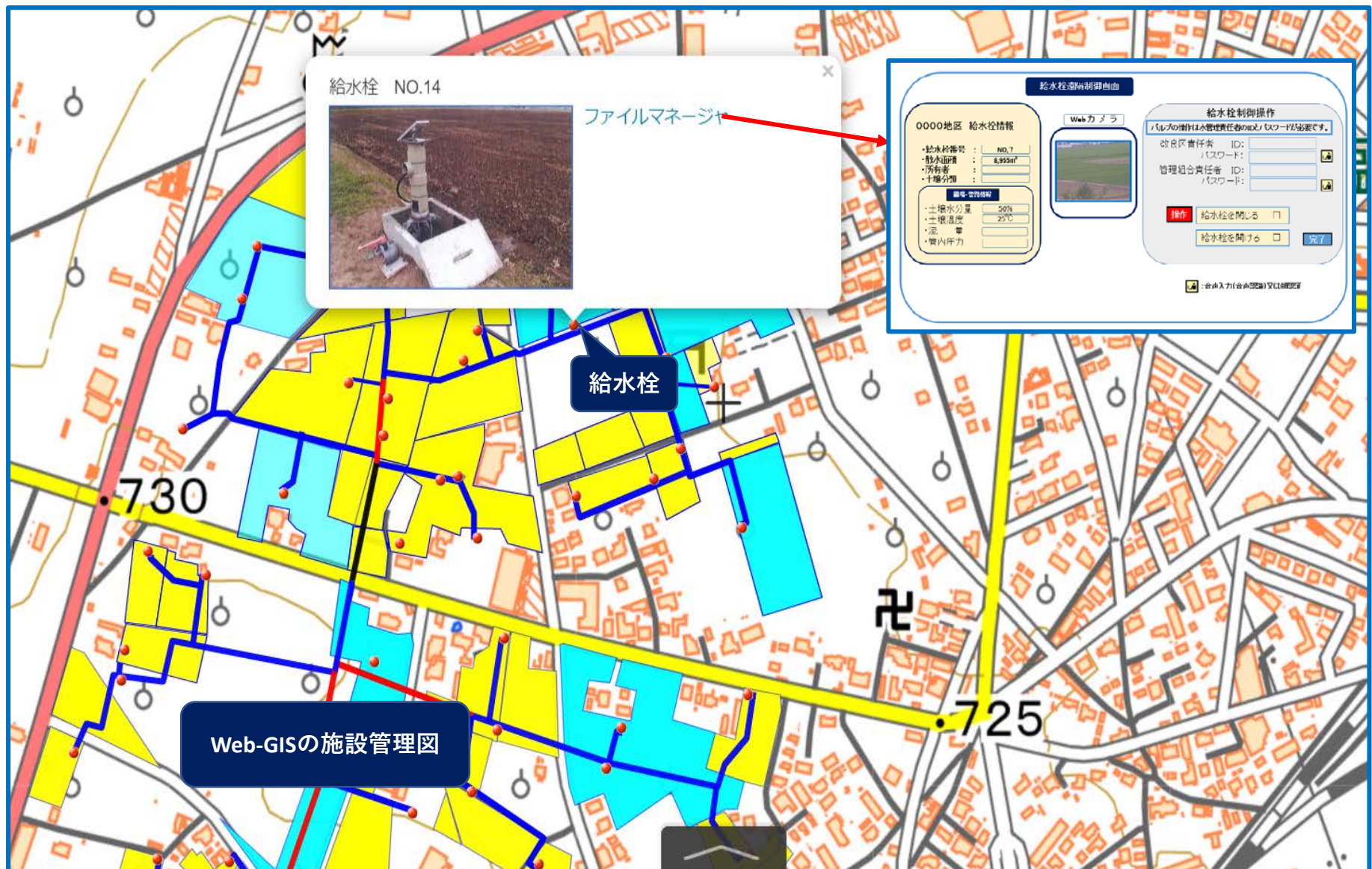
IOTとWeb地図が連携した施設管理システム機能

- 1、ポンプ稼働状況のモニタリング（IoT活用）
- 2、Web-GIS施設管理システムから給水栓を遠隔制御（IoT）
- 3、農業機械の自動運転管理（IoT活用）
- 4、施設園芸における栽培設備の自動制御
- 5、ドローンによる農作物の診断（IoT活用）

1、ポンプ稼働状況のモニタリング（IoT活用）



2、Web-GIS施設管理システムから給水栓を遠隔制御（IoT）



3、農業機械の自動運転管理（IoT活用）

農業機械の自動運転を遠隔管理すると同時に、作業圃場の耕作管理を行う。



4、施設園芸における栽培設備の自動制御（IoT活用）

施設内の環境を最適化する制御システムを管理する。

施設内の温度、湿度、CO₂濃度、日射量、溶液、生育状況、収穫時期などの情報とセンサーを管理し、スマホやタブレットで遠隔地から監視する。



5、各施設のモニタリング及びデータ管理（IOT活用）



フィールドサーバ

フィールドサーバ

過酷な気象条件に耐える耐候性の観測施設

●気温、湿度、日射量、土壌水分、葉の濡れ、紫外線、CO₂、害虫カウンタ等多数のセンサ、ネットワークカメラ、データ表示・遠隔制御する

Webサーバを内蔵

●無線LANでインターネットに接続（通信可能距離は3kmまで）

（中央農業総合研究センター資料より）



分光ミラー/フィルター内蔵
のマルチスペクトルカメラ



GPS自動走行システムを搭載したトラクター（イメージ）



農作業機械の自動運転